

# 令和元年度の技術交流会開く

## 福井県コンクリート診断士会 主催



福井県コンクリート診断士会(山川博樹会長)の「令和元年度技術交流会」は9日、鯖江市桜町2丁目の市郷陽会館で開かれ、会員6氏が診断事例をそれぞれに発表。約50人が熱心に聴いた。

# 活発に質疑応答し情報を共有

## 会員6氏が調査事例など発表

まず山川会長が挨拶。「会発足16年で、研修会は106回目。会員同士の技術的な交流、知識と理解を深

めてほしい」と述べた。交流内容は、各発表者が仕事で携わった診断事例から、トンネルや橋梁などで進む老朽化の現状紹介や、苦労した点なども率直に話した。参加会員からは、さらに詳細な説明を求めたり、自身の経験談

も合わせて披露するなど活発に意見交換し、情報共有しあった。庄巻は、丸高コンクリート工業の中山氏が紹介した越前市の岡本砂防ダム改築工事において、実際に設計を担当した会員からの補足説明などだった。



濱口氏

M・T技研の濱口亮氏  
コンクリート橋の調査事例を発表。超音波伝搬速度を用いた凍害深さの推定で、施工管理等が不十分のため圧縮強度が低く、品質が確保されなかったよう。全体的に超音波が遅かったが凍害発生範囲は推測できた。



林氏

東京コンサルタンツ福井支店の林快宗氏  
トンネル点検における診断事例紹介。曲げ引張りや、断面の変化点にひび割れが生じるなど、トンネルの力学的な知識が必要。点検で分からない点については、目的に応じた詳細調査の提案が重要。



梅田氏

デルタコンサルタントの梅田祐一氏  
砂防施設の補修補強設計事例。本体構造として下流腹付けを砂防コンクリートで施工する断面を示し、各県で考え方の相違が大きいと指摘。袖部の地すべり変状の対策や、前庭保護工の洗掘対策も紹介。



中山氏

丸高コンクリート工業の中山博隆氏  
超高強度繊維補強コンクリートを用いた製品の施工事例。同コンクリートは高強度で高耐久の材料で、特徴を生かした製品を用いることで、点検補修にかかる維持管理コストが低減できると指摘。



植村氏

帝国コンサルタントの植村一盛氏  
橋梁の耐久性・維持管理性に関する設計基準および配慮事項。道路橋示方書の規定や、各地方整備局の規定、施工時の配慮事項、維持管理配慮事例(一般国道476号の戌山橋・大野市)を紹介。



坂田氏

福井県会計局工事検査課の坂田正宏氏  
PDCAのC、Aのための工事検査。脱型後の湿润養生において、フーチングコンクリートやフライアッシュコンクリートなどを事例に課題を示し、発注者サイドにおける基準の明確化を指摘した。